

Lesson

01

「心の豊かさ」を求める時代になっ てきている

日本だけでなく、世界規模でものの見方や価値観が変わり始めています。その背景にある「成熟社会」とは何か、何を重要視し始めているのか考えてみましょう。

「ものの豊かさ」よりも「心の豊かさ」を求める時代

お金やものが足りなかった時代は、その欲求が満たされると私たちは幸せでした。日本は、戦後からの高度経済成長・拡大主義によって、物質的には満たされていったのです。

しかし、現代は成熟社会に入り、自動車や家電などの工業製品が産業の中心となっていた「工業社会」から、サービスやITなどの情報が中心となる「情報社会」へとシフトしています。すでにものは供給過剰となり、さらに「もの」と「情報」との違いが、新たな課題を生み出し、新しい社会の枠組みや仕組みが必要になってきています。

企業では、成熟化による市場の閉塞感を打ち破るために、イノベーション（※1）を起こせる、新たな価値観を持った人材を求め始めました。従業員一人ひとりの個性を尊重し、そこから得られる多様な価値観から企業が生き残っていくためのヒントを見つけ出そうというわけです。上意下達^{じょうい かつ}に従い、滅私奉公する、いわゆる「会社人間」ではなく、「人としての豊かさ」を重視する傾向が強まっています。

私たちも働きづめでお金やものをたくさん所有することよりも、生活の中で家族や地域とのつながりを大事にしたり、自己実現を図ったりすることのほうを優先させるなど、心の豊かさを重視する人が出始めています。

先進諸国で「幸福度」を政策指標に取り入れる動き

こうした人々の価値観の変化は、世界規模で見られます。先進諸国を中心に、「幸福度」を国の政策の指標にしようという動きが世界で活発になっているのは、日本と同様の背景

【資料 1】

国別幸福度ランキング 上位 10 カ国
2018～2020 年 (全 149 カ国)

1 位 フィンランド
2 位 デンマーク
3 位 スイス
4 位 アイスランド
5 位 オランダ

6 位 ノルウェー
7 位 スウェーデン
8 位 ルクセンブルク
9 位 ニュージーランド
10 位 オーストリア

日本………56 位
アメリカ…19 位

GDP が高い国が幸福
度が高い結果には
なっていない

出典：2021 年版世界幸福度報告 (World Happiness Report 2021)

があるからです。

20 世紀は、高度経済成長政策が取られ、工業化や GDP (国内総生産) が国の先進性の指標とされていた時代でした。しかし、その見返りとして、21 世紀の時代は、環境汚染、資源の枯渇、貧富の差の拡大、戦争やテロ活動の発生など、持続可能ではない社会に直面しています。

そこで、フランスでは 2008 年に「幸福度測定に関する委員会」を発足させ、英国でも「幸福度指標」の導入を進めています。イタリア、アイルランドでも国レベルで幸福度を国の発展指標にすることが検討されています。

国連では、2011 年 7 月に、「幸せの国」として有名なブータン政府の提案を受け、「社会経済開発の達成と測定のために、幸福という観点をよりいっそう取り入れる」ことを国連加盟国に求めた、歴史的とも言える決議が行われました。

その結果、2013 年から毎年 3 月 20 日を「国際幸福デー」と定め、2012 年より加盟各国の幸福度を調査した「世界幸福度報告書」(資料 1) を発表しています。幸福への機運が世界規模で高まっているのです。

Annotation

※ 1 イノベーションとは、オーストリアの経済学者シュンペーター (Schumpeter) によって、初めて定義された言葉。経済発展は、人口増加や気候変動などの外的な要因よりも、イノベーションのような内的な要因が主要な役割を果たすと述べている。また、イノベーションとは、新しいものを生産する、あるいは既存のものを新しい方法で生産することであり、生産とはものや力を結合することであると述べている。

point



- ①成熟社会に入り、工業社会から情報社会へとシフトしつつあります。
- ②世界規模で価値観が変わり始め、先進諸国では「幸福度指標」の導入が進んでいます。

Lesson

02

経済が発展しても、
人々は幸せになっていない

国の発展のために「幸福」という指標が重要視され始めている背景には、経済の発展と国民の幸福感の高まりは連動しておらず、むしろ弊害が生じてきているということがあります。

実質 GDP が増えても、幸福感は高まっていない

日本の国がどのくらい発展しているのかを測るモノサシとして、多くの場合、一人当たり実質 GDP（※1）が使われています。政治家も経済界もマスコミも、実質 GDP が上がった、下がったと一喜一憂する重要な指標として用いられ、ビジネスマンも研究者も、実質 GDP を増やすことに懸命に取り組んできました。これは過去のことではなく、現在も実質 GDP を増やすことが国を発展させる目標となっていることに変わりはありません。

ところが、実質 GDP が増えると国が発展して物質的に豊かになり、自分の所得も増えて幸せになれると、多くの人が信じてきたのに、そうではありませんでした。

内閣府による「生活満足度」の調査（資料2）では、日本の実質 GDP は50年間で約6倍に増加しているものの、生活満足度は、ほぼ横ばいという結果です。

日本の人々の幸福度は、高度成長期もバブル景気も、オイルショックのときもあまり変わっていません。つまり、経済的に豊かになることが幸福度を高めることに、必ずしもつながっていないということなのです。

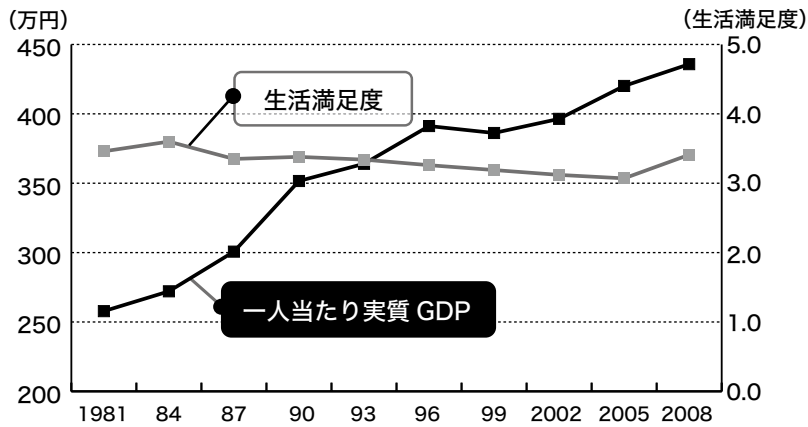
現代の幸せは、未来を犠牲にしている

1970年代までは、日本も物質的な豊かさが幸福に結びついていました。しかし、1980年代以降、実質 GDP が伸びて国が豊かになっても、人々の幸せが同じように向上しているわけではないことには、次のような理由が考えられます。

一つは、そもそも実質 GDP は、国内で生産されたものや

【資料 2】

生活満足度および一人当たり実質 GDP の推移
内閣府「平成 23 年度国民生活選好度調査」



開発されたサービスによって生み出された総額を表しているだけで、それによって日本の人々が幸せになったかどうかという要素は含まれていません。乱暴な言い方をすれば、私たちが幸せになろうがなるまいが、実質 GDP が増えれば国が豊かになったと見えてしまうわけです。

私たちは、国が示す価値観のもとに、効率性を最大化することに突っ走ってきた結果、確かに、経済的には豊かになりました。しかし、その一方で、環境汚染や原発事故などの重大な問題を引き起こしています。

こうしたことが、日本人の幸福度の低下に影響を与えていることは、十分に考えられます。さらに言えば、現代の幸せは、未来の世代を犠牲にしながら成り立っていると言えるかもしれません。

Annotation

※ 1 実質 GDP (国内総生産) とは、一定期間内に国内で新規に生産された、ものやサービスの付加価値の総和を、インフレなど物価変動による影響を考慮して算出したものの。

point



- ① 実質 GDP が増加しても国民の幸福感は高まっていないことがわかりました。
- ② 効率性重視の経済拡大政策によって、環境汚染など未来の世代に大きな影響を及ぼす弊害が生じています。

Lesson

03

「部分最適思考」が 格差社会を生み出している

経済的に豊かになっているのに、なぜ人々の幸福感はそれに伴って高まっていかないのでしょうか。経済が低成長に陥った現代に浮上している問題が、その原因を物語っています。

自由競争が生み出す格差社会

実質 GDP の成長と人々の幸福感の向上が連動していないもう一つの理由として、格差社会が生じていることが考えられます。

個人個人が、自分自身の幸せを求めて所得を増大させても、社会全体の幸福度がくまなく高まるわけではありません。自由主義（※1）というのは競争を生み、格差を拡大します。経済成長・拡大社会を追求し続けて来た結果、貧困、失業者の増加、低賃金化などの問題が浮上しています。

さらに、これらの社会問題を解決するために多くの社会的コストがかけられ、年金支給を含めた老後の問題など、将来への不安がかき立てられています。

こうしたさまざまな問題が経済の低成長・成熟社会の中で浮き彫りになっていることも、人々の幸福感に影響していると考えられます。

全体を見て根本的な解決を目指す「全体最適思考」へ

しかし、一方で、経済成長によって得られる所得や雇用の増加は、幸せを得るための重要な基盤であるという考え方があります。「経済発展なくして、人々の幸せなどあり得ない」という議論です。

人々の幸福感を優先するのか、それとも経済成長を第一に目指すべきなのか、簡単に結論を出すことはできません。しかし、少なくともいま、私たちが気づかなければならないことは、これまでの拡大・成長主義の価値観だけでは、幸せになれていないという現実です。

Annotation

※1 自由主義とは、個人の諸自由を尊重し、封建的共同体の束縛から解放しようとした思想や運動のこと。

部分最適思考



格差社会

● 貧困、失業者の増加、
低賃金化…



全体最適思考



課題解決

成長社会で私たちが追求してきたのは、「自分たちが幸福になること」でした。それは、社会全体で見ると「部分最適」でしかありません。成熟社会に入った現代では、その部分最適の考え方によって限界がきているわけですから、「全体最適思考」で社会全体に視野を広げ、俯瞰的に見て、根本的な課題解決に取り組むことが、閉塞感を打ち破るきっかけになるはずです。

point

- ① 経済成長・拡大社会は、「格差」を生み出し、貧困、失業者の増加、低賃金化などの問題が浮上しています。
- ② 「部分最適思考」から「全体最適思考」へと切り替えることが、現代の閉塞感を打ち破るきっかけとなります。

Lesson

04

「幸福感」の ジェネレーションギャップ

いまの若い世代の人たちは、成熟社会の中でどう生きれば幸せを感じられるのかを知っています。幸福感の高い人は、人生だけでなく仕事にも好影響があります。

成長時代と成熟時代で幸福感にギャップがある

いま、成長社会を生き抜いてきた大人たちと、成熟社会で育ってきた若者たちとの間に、「幸福感」のジェネレーションギャップが生じています。

日本は少子高齢化、成熟社会に入り、生産年齢人口の減少、高齢者人口の増加と、経済が縮小してしまうおそれがあります。この状況を「危機的」と捉え、「競争力を強化しろ」、「成長戦略を考えろ」、「イノベーションを起こせ」、こうはっばをかけている会社経営者や管理職は多いでしょう。

しかし、こうした成長・拡大志向の価値観に対して、経済の低成長が当たり前の成熟社会で育てきたいまの若い世代は、多くの人たちが違和感を持っています。

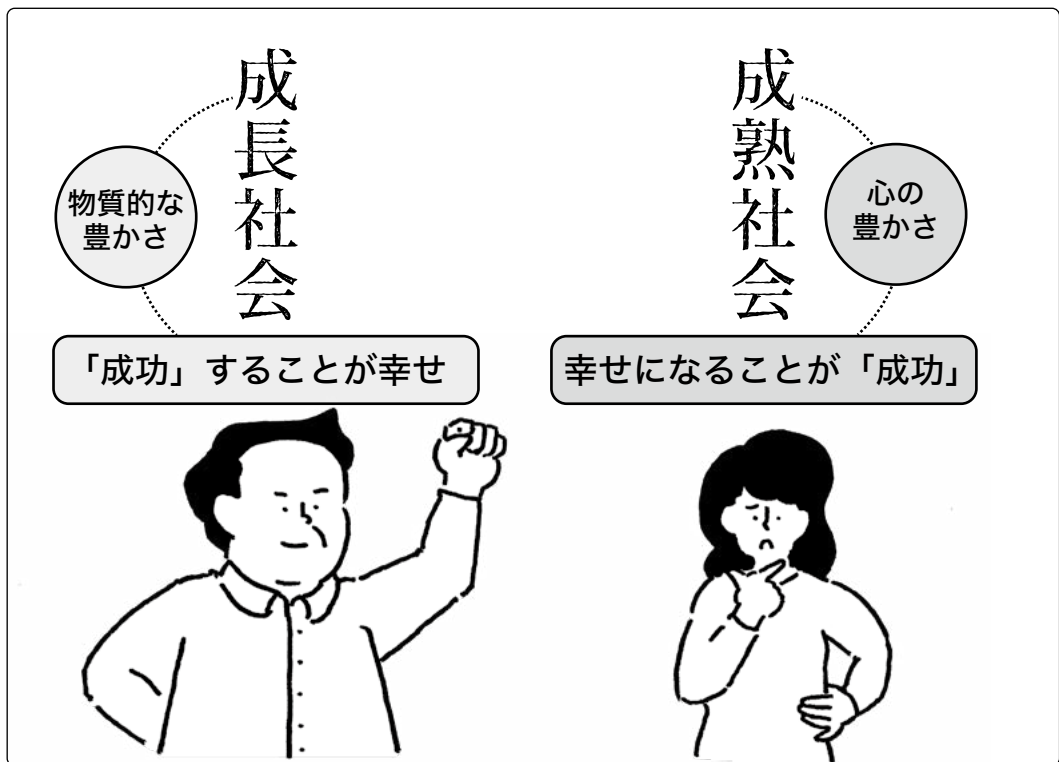
それは、勝負や挑戦をしようとしなない軟弱な若者が増えていくのではなく、いまの若い世代は、成熟社会で得られる幸福感はお金やものではなく、心の豊かさにあることを肌感覚で知っているということです。

特に、2011年3月の東日本大震災以降、自分のことよりも他人の幸福を願ってボランティア活動などに勤しむ、利他的な若者が増えています。

幸福感の高さは仕事に好影響を及ぼす

成熟社会に入ったいま、成長社会の価値観をいくら押し付けても、そこに幸福感を見出せない人たちを動かすことは難しく、それこそ生産性は上がりません。

シンプルに言うと、成長社会では「成功すること」が「幸せ」でしたが、成熟社会では、「幸せになること」が「成功」



につながります。これからの若者とともに社会をつくり上げていくためには、こうした新たなパラダイムへシフトすることが求められているのです。

幸せになることは、豊かな人生のためにも大切なことです。そして、豊かな人生と切り離せない関係にある「仕事」にも深く影響します。カリフォルニア州立大学のリュボミアスキー心理学教授の研究チームが行った調査によると、「幸福度の高さはビジネスに好影響をもたらす」といい、「幸福度が高い社員は、そうでない社員と比べて生産性で30%、営業成績で37%、創造性は3倍高い」というデータが出ています。

幸せかどうかは、仕事のクオリティそのものを大きく左右する要因でもあるということです。

point



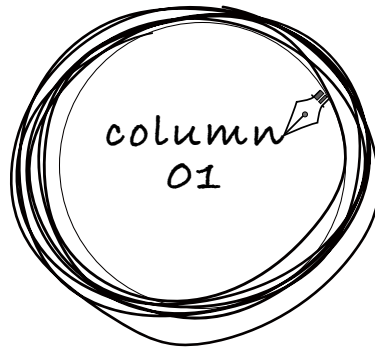
- ① かつての成長社会では「成功すること」が「幸せ」でしたが、成熟社会では「幸せ」になることが「成功」です。
- ② 幸福感の高い人は、仕事にも好影響があるという調査結果が出ています。

豊かさについて考えてみよう

●これまで一般的に言われてきた「豊かさ」とは、どのようなものですか？

●現代における「豊かさ」とは何ですか？

●また、どのような状態が「豊かである」と思いますか？



いま、先進諸国を中心に、世界規模で「幸福研究」が盛んになっています。幸福研究の論文数で見ると、1980年代にはほぼゼロでしたが、2000年代から急激に増え、2010年代には300近い数に上がっています。

世界中で300とは、数としてはまだ多くありませんが、多様な研究が行われるようになったことを象徴しています。

幸福研究が世界中で増えてきた理由の一つは、経済成長最優先の考え方に行き詰まってきたからです。

世界規模で幸福研究が拡大

最近では、工業化の進展だけで「先進性」を測るべきではないという考え方が台頭し始め、たとえば、生活の質を測る「人間開発指数」が国の先進性を測る新たな指標の一つに考えられています。

「人間開発指数」とは、平均寿命、教育指数、GDP指数の3つから産出されます。ちなみに、2020年の「人間開発指数」の上位国は、ノルウェー、アイルランド、スイス、香港、アイスランド、ドイツでした。日本は19位でした。

人間開発指数ランキング (人間開発報告書 2020)

1位 ノルウェー	6位 ドイツ
2位 アイルランド	7位 スウェーデン
3位 スイス	8位 オーストラリア
4位 香港 (SAR)	8位 オランダ
4位 アイスランド	19位 日本